

国際線増便のためとして  
今月29日から予定されてい  
る羽田空港新ルート。危険  
性などないのでしょうか。  
ジャーナリストの櫻田秀樹  
さんに寄稿してもらいまし  
た。(見出しは編集部)

# 羽田空港新ルート で住民投票運動

ジャーナリスト 櫻田 秀樹



スタート集会会場に定員の倍以上の約150人の住民が集まった

## 陸から入って陸に出る

### 大騒音と部品落下に不安

1月18日。定員70人の部屋は約150人に埋め尽くされ、「羽田空港の飛行新ルートを撤回せよ！」との声飛び交っていた。

今年3月29日から、国際線の羽田空港への離発着に新ルートが導入される。従来は、都心での騒音を避けるため、羽田空港を離発着する飛行機は「海（東京湾）から入って海に出る」ルートを飛んでいたが、これに加え、「陸（都心）から入って陸に出る」ルートの運用が始まるのだ。

国土交通省は、2014年7月8日、増え続ける外国人観光客を受け入れるため、東京オリンピック開催までに羽田空港は年間3万9000回、成田空港は4万回の増便が可能とする試算を出した。それを実現させるのが新ルート案だった。

### パチンコ店内並みの品川区

羽田空港には、南北に延びるA滑走路とC滑走路、そして東西に延びるB滑走路とD滑走路がある。現在、BとDが着陸に使われているが、新ルートでは南風の吹く15時から19時のうち3時間に限り、AとCも着陸に使う。その飛行ルートは以下のようなもの。

現在、BとDが着陸に使われているが、新ルートでは南風の吹く15時から19時のうち3時間に限り、AとCも着陸に使う。その飛行ルートは以下のようなもの。埼玉県から南下する飛行機



着陸ルートは民家、病院、学校を挟んでいる (増間 裕郎 代表)

約1分20秒ごとに1便の計算だ。

出発後も、南風時の同じ時間帯でBから毎時20便が離陸し、川崎コンビナート上空を通過して海に抜ける。北風時には、7時から13時半、そして15時から19時の間の3時間を使って、Cから毎時23便が江東区や江戸川区の上空を通過して北上する。

2014年7月8日にこの概要が明らかになると、すぐに新ルート直下の各地で「騒音はいらない」と住民運動が始まった。

70dbとは、1m以内の会話でも大声が必要な騒音レベルで、80dbはパチンコ店内並みと言われている。

### 基準値以下と 国交省は判断

国は騒音をどう捉えているのか。私は国交省航空局に質問を入れてみた。

「一般民家への防音対策を考えているのか？」

「防音工事はしません。新ルートではほとんどの地域で、騒音は航空機騒音の基準値の62db以下と予測されています」

「え、騒音は70db以上の予測ですよ。」

「Ldenでは62db以下の予測です。」

## 渋谷あたりに 氷塊落ちて来る

住民のもう一つの心配は「落下物」だ。飛行機は常に、部品やパネル、はたまた氷点下の上空で機体に着した氷を落下させている。国交省によると、2017年11月から2019年10月までの2年間で、国内主要7空港に離発着する航空機から1180個の部品が欠落（落下）した。

たとえば、2018年9月には、大阪府でKLMオランダ航空の胴体パネルが落下し、車を直撃。2019年5月25日には、熊本空港を飛び立ったJAL機から98個の部品が落下し、そのいくつかで病院の窓ガラスが破損した。

市民団体「みなとの空を守る会」の増間裕郎共同代表は「今まで海に落ちた部品は今は都心に落ちる。特に氷は、着陸のため前輪を出す衝撃で落ちるので、渋谷あたりが危険だ。果たして区議会が条例案を可決するのか。というのには、40人の品川区議会議員のうち、条例案への賛成は現時点では過半数以下の15人と推定されているからだ。」

## 品川区議会で条例案可決へ

### 3万人の署名を目指す

1月18日の集会では、「成功させる会」が参加者に住民投票の具体的な手順を説明した。

- ① 請求代表者（署名の責任者）を決め、地域の選挙管理委員会に届ける（現在11人）。
- ② 署名開始。期間は1ヵ月間。

有権者の50分の1（6721人。2019年12月2日時点）以上を集める。

- ③ 署名を選管に提出し、有効と認められれば、請求代表者は区長に直接請求する。
- ④ 20日以内に区長は区議会を

招集する

- ⑤ 区議会が「羽田新飛行ルートの是非を問う区民投票条例案」を可決する。
- ⑥ 区民投票条例を施行し、区民投票の実施。

「品川区民の会」の大村究（きわみ）さんはこの疑問にこう回答した。「残り25人にはグリーン」

### 飛行実験で 受任者増える

これを成功させるキーとなるのが、署名収集協力者である「受任者」だ。最低でも5000人は必要。ところが、「成功させる会」には1月18日現在で約2000人の受任者がい

たが、2月末時点で早くも1000人を突破した。

この背景のひとつには、2月2日から12日にかけて国交省が行なった、実際の旅客機の新しい飛行実験がある。その総数、1048機。このときの「家体が振動で震えた」「もうすぐ着くさーい」などの実体験が関心を深めたことは間違いない。

ただし、昨今のコロナウィ

## 大井町上空で車輪出し 1分間隔で飛来



大工 ちがにわかに大声で騒ぎ始めて気が付いた感がありまして。2月2日。午後4時〜6時の間、大井町駅上空が突然騒音に見舞われました。夕刻のせい、大井町駅周辺は人もまばらで試験飛行などしていても気づく人は少なく、報道陣らしき人た

大井町は羽田に近く、かなり高く遠くに飛行していることはたびたびですが、こんなに間近に低空飛行してくると脅威に思っています。また横田基地や沖縄の基地周辺の住民の思いが伝わってきます。いつか落ちてくるのでは？ (目黒)

「品川区民の会」も「みなとの空を守る会」も、署名、国交省と交渉、デモ、集会、区議会への陳情などやりながら、計画への反対を訴えてきた。だが、国交省は多くの住民

の反対を知りながら、2019年8月8日、「住民の理解を得た」と声明を出し、2020年3月29日からの新ルート運用を発表した。ここに至り、品川区民が選んだのが区民投票だったのだ。